

# 平成17年2月期の業績予想及び経営方針

平成16年10月14日

上場会社名 株式会社サークルKサンクス

上場取引所 東京・名古屋

コード番号 3337

本社所在都道府県 愛知県

(URL http://www.circleksunkus.jp)

代表者役職名 代表取締役社長 氏名 土方 清

問合せ責任者役職名 執行役員経理財務本部長 氏名 山口 利隆 TEL (03) 5635 - 3524

親会社名 ユニー株式会社(コード番号: 8270) 親会社における当社の株式保有比率 47.3 %

米国会計基準採用の有無 有・**無**

当社(旧社名サークルケイ・ジャパン株式会社)は、株式会社シーアンドエス、株式会社サンクスアンドアソシエイツを吸収合併し、平成16年9月1日に株式会社サークルKサンクスに商号変更いたしました。平成16年8月期の株式会社シーアンドエスの決算内容を踏まえ、平成16年9月1日に公表した株式会社サークルKサンクスの平成17年2月期業績および期末配当につきまして、下記の通り予想を修正いたしますのでお知らせいたします。

## 1. 平成17年2月期の株式会社サークルKサンクスの連結業績予想(平成16年3月1日~平成17年2月28日)

	営業総収入 [チェーン全店売上高]	経常利益	当期純利益
17年2月期	百万円 138,430 [ 721,700 ]	百万円 17,310	百万円 9,310

(参考) 1株当たり予想当期純利益 108円03銭

上記の業績予想につきましては、P.2 解説図【A】をご参照下さい。

ご参考 合併以降の株式会社サークルKサンクスの連結業績予想(平成16年9月1日~平成17年2月28日)は下記の通りとなります。P.2 解説図【B】をご参照下さい。

	営業総収入 [チェーン全店売上高]	経常利益	当期純利益
17年2月期	百万円 86,232 [ 460,595 ]	百万円 9,023	百万円 4,661

ご参考 合併前の株式会社シーアンドエスの連結業績(平成16年3月1日~平成16年8月31日)と合併以降の株式会社サークルKサンクスの連結業績予想(平成16年9月1日~平成17年2月28日)を合算した1年間では下記の通りとなります。P.2 解説図【C】をご参照下さい。

	営業総収入 [チェーン全店売上高]	経常利益	当期純利益
合算による 17年2月期 (A)	百万円 176,650 [ 940,130 ]	百万円 23,210	百万円 12,580
(株)シーアンドエスの 16年2月期 (B)	169,501 [ 902,247 ]	19,701	7,651
前年同期比増減率 (A÷B-1)	% +4.2 [ +4.2 ]	% +17.8	% +64.4

(参考) 合算による平成17年2月期の当期純利益 12,580百万円に基づき算定した1株当たり予想当期純利益は145円97銭となります。

## 2. 17年2月期の個別業績予想(平成16年3月1日~平成17年2月28日)

	営業総収入 [チェーン全店売上高]	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金		
				中間	期末	
16年8月期	百万円 134,770 [ 706,360 ]	百万円 17,610	百万円 9,550	円 銭 (注1.)	円 銭 20 00	円 銭

(参考) 1株当たり予想当期純利益 110円81銭

(注) 1. 株式会社サークルKサンクスは、平成16年8月末現在の株式会社シーアンドエスの株主に対し、中間配当相当額として1株当たり16円00銭の合併交付金を支払います。

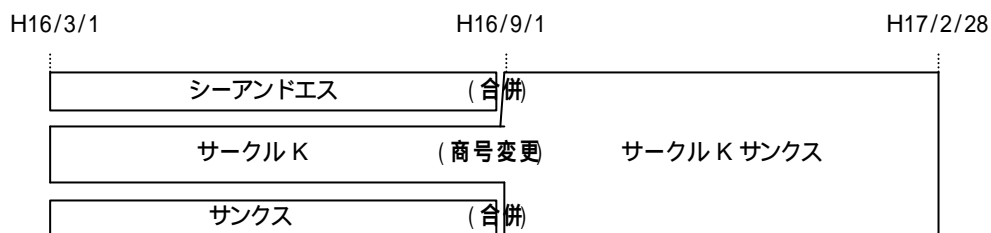
2. 期末配当金20円00銭のうち2円00銭は、合併による記念配当です。

上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予想を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想とは異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付書類の6ページをご参照下さい。

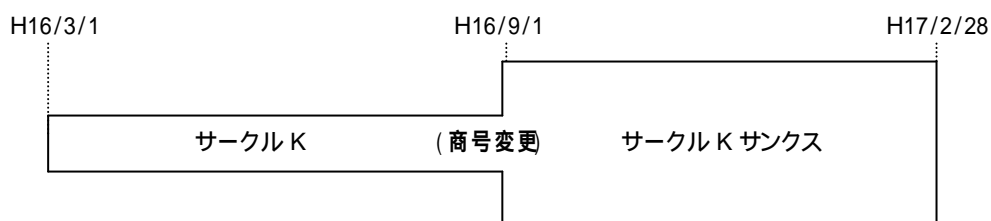
**解説図**

以上の数値の関係を図式化すると下記の通りとなります。

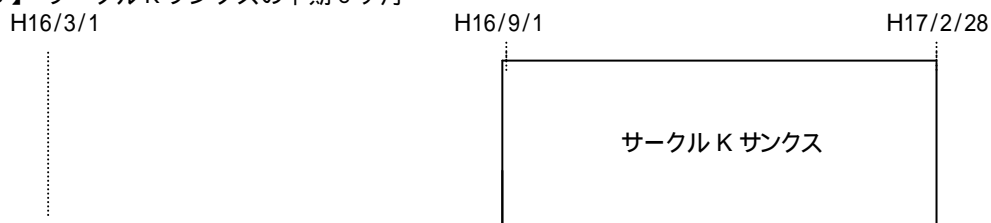
**【全体図】**



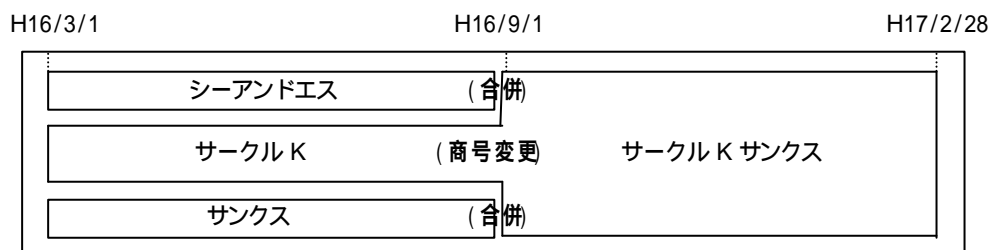
**【A】 サークルK サンクス (旧社名サークルケイ・ジャパン株式会社) の平成 17 年 2 月期**



**【B】 サークルK サンクスの下期 6 ヶ月**



**【C】 シーアンドエス連結の上期 6 ヶ月とサークルK サンクスの下期 6 ヶ月の合算**



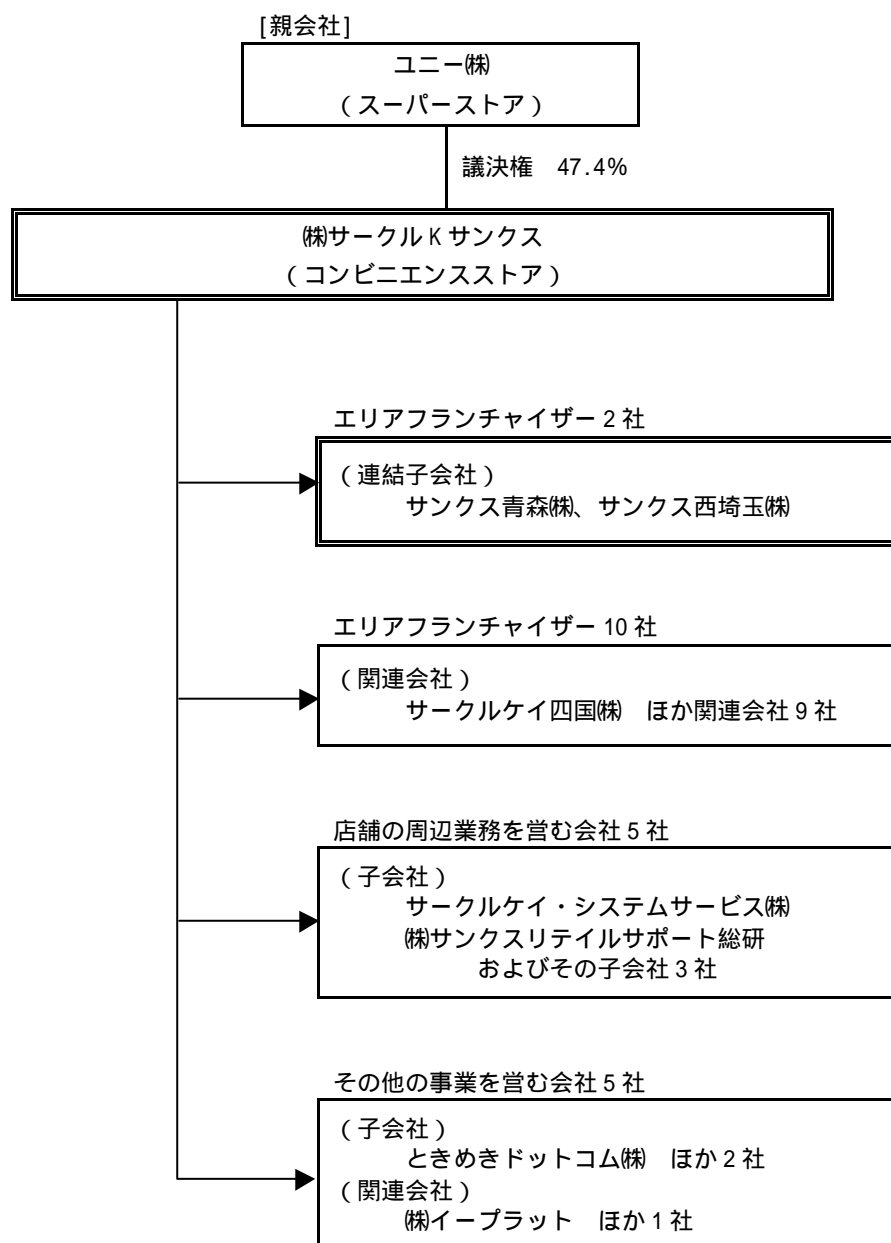
以 上

## 1. 企業集団の状況

当社グループは、スーパーストアを展開するユニー株式会社の企業グループに属し、株式会社サークルKサンクスのほか、サンクス青森株式会社およびサンクス西埼玉株式会社の連結子会社2社、そのほかの子会社8社、関連会社12社の計23社からなる企業集団であります。その主たる事業はコンビニエンスストアのフランチャイズチェーン展開であります。

エリアフランチャイザーを含む当社グループのコンビニエンスストアの展開地域は、平成16年9月1日現在、北海道から鹿児島県までの36都道府県となっております。

事業の系統図は次のとおりであります。



## 2. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

当社の経営理念 「わたしたちは、社会に信頼され、成長し続ける企業をめざします。」

上記の経営理念のもと、当社は中核のコンビニエンスストア事業を通じて安心、安全で高品質な美味しい商品を提供し、社会貢献活動や環境保全活動にも誠実に取り組みます。また法令の遵守、公正な情報開示など企業規模に見合った社会的責任を果たします。そして改革や創意工夫を通じて企業価値を高め、株主、お客様、地域社会、加盟店、取引先、社員など当社に関係する全ての人・組織に対して価値を提供し続ける企業でありたいと考えています。

### (2) 会社の利益配分に関する基本方針

当社は、高い成長性を維持するとともに経営基盤を強化するための内部留保を充実させながら、業績の伸びに沿って株主の皆様へ利益還元を行ってまいります。具体的には、安定配当の維持を第一に考えておりますが、利益の伸びに応じ連結当期純利益の 20% を配当として還元する方針であり、将来的には配当性向を 30% に高めていきたいと考えております。

平成 16 年 8 月末の株式会社シーアンドエスの株主に対して支払う合併交付金（中間配当相当額）は一株当たり 16 円であります。また、期末配当金については合併による記念配当 2 円を含めて 4 円増配し 20 円とする予定です。この結果、シーアンドエス、サークルKサンクスを通じて実質的に計算した平成 17 年 2 月までの 1 年間の配当性向は 24.7% となります。なお、内部留保資金につきましては新店の開発や既存店の活性化、新規商品の什器設備など投資に充てる予定です。

### (3) 目標とする経営指標

合併による経営の効率化によりチェーン全店売上高対連結経常利益率 3% 以上を目指し、年 10% 以上の利益成長を達成することで、新 3 カ年計画最終年度の平成 19 年 2 月期には連結経常利益を 285 億円にすることを目標としています。

### (4) 中期的な会社の経営戦略

小売業で激化している競争は業態を超えてこれまで比較的優位にあったコンビニエンスストア業界にも及び、近年、産業界各所で見られるような大手による寡占化が進むと考えられます。そのような環境のなかで当社は、大手チェーンとして生き残れる改革を実現する為、下記の 8 つの方針を経営戦略の柱としています。

メーカー情報と消費者情報の連携による顧客起点志向の『マーケティング・イノベーション』実現  
店舗開発や新規投資に際して投資・資金効率を重視する体制づくり  
コンプライアンス室の設置や行動指針の確立による遵法精神重視の経営体制  
新人事制度の構築と安心して働くことができチームワークを重視した明るく開放的な企業風土づくり  
業務プロセスの一本化による効率化推進  
ローコスト経営に徹した無駄の排除と固定費の削減  
あらゆる支援によるエリア F C 育成と経営管理の精度向上  
企業が成長を持続するための新事業・新業態の開発

### (5) 会社が対処すべき課題

当社グループは本年 9 月 1 日に合併を実現し統合の第 1 段階を達成いたしました。統合の効果をより発揮し合併が成功したと判断されるようになるには、新会社としてあるべき姿を追求し続けることが不可欠です。株式会社サークルKサンクスは、平成 17 年度を第 2 段階、平成 18 年度を第 3 段階として統合を推進し、平成 18 年度までにベンダーおよび物流の集約、情報システム、人事諸制度など全ての業務プロセスを完全に一本化することを目指します。その結果、本年 10 月に作成した新 3 カ年計画を実現できるように改革を継続してまいります。

## (6) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、常に「顧客起点志向」で考え、小売業としてなにより地域のお客様の支持と信頼を得ることを重要な経営課題としております。また、ユニーグループの一翼としてグループの戦略を担いつつ、株主との関係を中心に、加盟店、取引先、従業員をいずれも重要なステークホルダーと位置付けております。そして、各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、法律上の機能制度を一層強化・改善することに加え、コンプライアンス体制の整備や積極的なディスクロージャーを通じてコーポレート・ガバナンスを充実させていきたいと考えております。

### コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

新会社サークルKサンクスの発足に当たり、下記のような経営体制の整備を行いました。

#### 小人数による取締役会

サークルKサンクスでは、8名の取締役によって取締役会を構成し、経営全般に関わる重要な決定に絞って議論することで迅速な意思決定を行うこととしました。一方、従来の監査役制度を継続し、常勤監査役3名を含む5名の監査役を配置して、充実した業務監査を行える体制としています。また、社外取締役、社外監査役としてそれぞれ1名を親会社であるユニー株式会社の取締役より招聘し、グループ間での意思疎通を図っています。

会社と社外取締役および社外監査役との取引関係その他の利害関係について該当事項はありません。

#### 執行役員制度の導入と権限の委譲

執行役員制度を導入して日常の業務執行に関する主要な決裁権限を執行役員に委譲し、業務執行のスピードアップを図りました。また、サークルKとサンクス2つの事業本部の本部長は、代表取締役専務としてチェーン運営における大部分の決裁権限を与えられ、迅速な業務運営を行っています。

#### 社内体制の整備

統合によりスタッフ部門を集約しましたが、一方で内部管理体制の充実を図りました。従来の総務部に加え法務部を新設して文書管理を充実させたほか、コンプライアンス室を設けて社内管理体制強化のための具体策に取り組んでいます。そのほか、社長直轄の部署としては、経営戦略室、監査室、お客様・オーナー室などのほかに広報IR環境室を設置し、適正な情報開示、環境保全活動、社会貢献活動に誠実に取り組んでいきます。

## (7) 関連当事者との関係に関する基本方針

### 親会社

株式会社サークルKサンクスはユニー株式会社を中核とした小売業、専門店等から構成されるユニーグループに属しております。親会社であるユニー株式会社は、当社の議決権を47.4%保有しております。

商品展開や業務提携において、グループ内で共有できるものについては一体となって取り組んでおります。なお、ユニー株式会社と当社は同じ小売業ではあるものの、それぞれスーパーストア、コンビニエンスストアと業態が異なることから、コンビニエンスストアの経営戦略等については当社の独自性が尊重されております。ユニー株式会社とは役員の兼務がありますが、人事および資金の交流はありません。

### 子会社および関連会社

当社はサークルKとサンクスそれぞれのブランドでエリアフランチャイズによる店舗展開を許諾しており、その数は子会社2社、関連会社10社、その他の会社2社の計14社となります。そのうち連結子会社はサンクス青森株式会社、サンクス西埼玉株式会社の2社です。エリアフランチャイザーの経営については、地域毎の独自性を尊重しつつ、当社グループとしての相乗効果と各地域での展開可能性による投資採算を見極め、必要に応じて人的支援や資金支援を行っていく方針です。

また、エリアフランチャイズ契約締結企業のほかに、コンビニエンスストアの周辺業務を行う企業やその他

の事業を営む企業等に出資を行っております。これらの企業の戦略および意思決定については、グループ利益の最大化という観点から決定しております。

### 3. 平成 17 年 2 月期の見通し

依然としてコンビニエンスストアを取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、当社グループは平成 16 年 9 月の合併で規模の利益・合理化利益の追求と並行し、店舗では魅力的な商品を提供し、決済手段の拡大などでお客様の利便性を高めることにより販売力の強化をはかります。サークルKサンクスでは「WAKU WAKU？」をキーワードに、接客サービス、安心安全で魅力的な商品、利便性の高いサービスの提供を通じてお客様がワクワク出来る店舗づくりを目指してまいります。

店舗開発では、平成 16 年 3 月から平成 17 年 2 月までの 1 年間にサークルKとサンクス合計で 400 店を出店し 223 店の閉店を行なう予定ですので、平成 17 年 2 月末における店舗数は、合併したシーケー東北の店舗数 154 店を合わせて平成 16 年 2 月末比 331 店の純増の 5,182 店を予定しております。

また、エリアフランチャイザー合計で出店 128 店、閉店 69 店を予定しており、グループ合計では出店 528 店、閉店 292 店となるため、平成 17 年 2 月末における店舗数は 6,388 店となる予定です。チェーン全店の売上高につきましては、既存店売上前年比 0.7%減を前提に平成 16 年 3 月から平成 17 年 2 月末までの 1 年間にサークルKで 5,056 億円、サンクスで 4,080 億円を見込んでおり、エリアフランチャイザーを含むグループ合計では 1 兆 1,156 億円を見込んでおります。

上記の結果、当社の 17 年 2 月期の連結営業総収入は 1,384 億 3 千万円、連結経常利益は 173 億 1 千万円、連結当期純利益は 93 億 1 千万円となる見込みです。

なお、平成 16 年 3 月～平成 17 年 2 月までの 1 年間におきましては、株主から見た実質的な経営成績は、平成 16 年 3 月から 8 月までは株式会社シーアンドエスが主体の連結決算、平成 16 年 9 月から平成 17 年 2 月までは合併後の新会社サークルKサンクス社が主体の連結決算となります。その 1 年間の内訳を示すと下記の通りとなります。

(単位：百万円)

	シーアンドエス連結 (平成 16 年 3 月～ 平成 16 年 8 月) (実績)	サークルKサンクス連結 (平成 16 年 9 月～ 平成 17 年 2 月) (予想)	合計 (平成 16 年 3 月～ 平成 17 年 2 月)	
				前期比
チェーン全店売上高	479,534	460,595	940,130	+4.2%
営業総収入	90,417	86,232	176,650	+4.2%
経常利益	14,186	9,023	23,210	+17.8%
当期純利益	7,918	4,661	12,580	+64.4%

(注) 上記に記載されている金額には消費税等は含まれておりません。

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。